



説教要旨「神の恵みはプライスレス」

使徒言行録8章4～25節

シモンという魔術師がサマリアにいました。シモンは、自らを偉大な人物と自称し、「偉大なものといわれる神の力」と人々から称賛を受けていました。ところが、フィリポが来て、福音を伝え、悪霊を追い出し、病の人を癒やすようになると、人々はシモンを離れてフィリポのもとに行ってしまう。人々が次々と洗礼を受けるのを見たシモンも、フィリポから洗礼を受けました。しかし、シモンが信じたのは、フィリポが語る『福音』ではありませんでした。シモンは、使徒ペトロとヨハネがやって来たとき、その権威を金で買い取ろうとしたのです。魔術師シモンが欲したのは、それまでの魔術よりも、さらに大きな『魔術』にすぎなかったのです。

そこには、神への信頼や感謝というものが欠如していました。そこでの祈りは、神を自分の思いのままに操作しようとする、ただの呪文にすぎません。それは、心から神を信頼し、その神に服従していく営みではなくて、逆に神を自分の願いどおりに服従させていく営みです。

わたしたちの信仰や祈りも、魔術師シモンと同じように、自分の願望を実現し、自分の思いを満たすための手段になっていないでしょうか。神さまとの間に信頼関係がないのであれば、それは信仰ではなくて、魔術にすぎません。わたしたちは、何かを神様に支払って、その対価として救いを得るのではないのです。そもそも、わたしたち人間が、神様に支払える対価など存在しません。わたしたちが自分のものだと思っているすべてが、神様によって造られたものであり、神様の所有物であり、恵みとして与えられているにすぎないからです。

一方的に神の恵みを与えられているに過ぎないわたしたちが、ほかの誰かに向かって、あなたには神の恵みは与えられないだとか、神の救いから遠い、などと言うことはできません。しかし、その神の恵みに値段をつけて、独占しようとするところでは、ユダヤ人が、神の救いの対象からサマリア人や異邦人を閉め出した様に、人を分け隔てるということが起こってくるのです。

(2021・10・24 説教者：稲垣真実)